

令和2年度第1回岡山市総合教育会議

日 時：令和2年5月13日（水）

午後3時30分～

場 所：市庁舎 第3会議室

会 議 次 第

1 開 会

2 協議事項

- ・未来を担う子どもたちへの教育について（次期教育大綱に向けて）

3 閉 会



これからの岡山市の学校のあるべき姿

— 次期の教育大綱に向けて —

資料1

令和2年5月13日
教育委員会

現行の大綱における取組について（検証）

学力の向上

< 目標 > 偏差値 (小) 51 (中) 50

	(H28)	(H29)	(H30)	(R1)
(小)				
国語 A	49	50	50	51
国語 B	50	51	50	
算数 A	50	50	49	50
算数 B	50	50	50	
(中)				
国語 A	48	49	50	50
国語 B	48	49	49	
数学 A	49	49	49	50
数学 B	48	49	49	

ほぼ到達

○授業改善が定着

○家庭学習が活発化

継続すべき取組

- ① 学力アセスの活用
- ② 「授業これだけは」の活用
- ③ 校長の参観 等

問題行動等の防止及び解決

< 目標 >

暴力行為 (中) 9.5件/1000人以下
不登校出現率 (小) 0.42%以下

(暴力行為) 中学校 1,000人当たり

(H27) (H28) (H29) (H30)
18.0 → 15.8 → 10.9 → 19.0

(不登校) 小学校 %

(H27) (H28) (H29) (H30)
0.57 → 0.64 → 0.71 → 0.91

未到達

○小学校の暴力行為は減少

×中学校の生徒間暴力が増加

×新規の不登校児童が増加

改善に向け必要なこと

- ① 不登校の具体策の徹底
 - ・早期対応
 - ・情報共有
- ② 中学校区の連携強化

教育委員会の決意



学力・不登校に関して

- さらなる学力の向上を目指し、各校の授業改善を進めます。(子どもが考え、表現する活動を重視)
- 不登校の新規出現数の減少に向けて、早期対応等の具体的な対策を示し徹底します。

これからの時代に求められる資質・能力に関して

- グローバル化の進展の中で、コミュニケーション力や文化の多様性を尊重する姿勢を育むとともに、英語教育を推進します。
- 情報化の進展の中で、情報活用の実践力や情報モラル等の力を育みます。

具体策

資料2

資料3

資料4

これからの岡山市の学校のあるべき姿

全校での徹底

- ・教育委員会のリーダーシップで具体策を示す

教員の力量を重視

- ・若手教員の育成に力を入れる

学校

保・幼・小・中の連携

- ・就学前との有効な情報交換
- ・教育課題、教育方針の共有
- ・一貫した保護者啓発

家庭・地域との連携

- ・地域協働学校を活かして家庭・地域に積極的に働きかける



これからの岡山市の学校教育について

課題

変化の激しい時代を生きる子どもたちをどう育成していくか

目標

「さらなる学力の向上」と「不登校の未然防止」

- 全国学力・学習状況調査の偏差値 小、中ともに51以上 (H31 小国語51、算数50 中国語50、数学50)
- 新規不登校児童生徒(小中合計)の出現率の低下 0.47%以下 (H30 0.74%)
<児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査>

具体策

取組1 さらなる学力の向上(自分で考え、表現する力の向上)

- 教員は、児童生徒が意見を交流する活動を取り入れた授業づくりを進める。
 - ・一つのテーマに基づいて、児童生徒同士が議論する授業を行う。
 - ・ICTを効果的に利用して、自分の考えを発表する授業を行う。
- 学校は、年に1回以上授業を公開し、授業づくりについて協議する機会を設ける。
- 教育委員会は、年に1回以上全学校を訪問し、授業づくりについて適切な指導助言を行う。

取組2 不登校の未然防止(新規出現数の減少)

- 学校は、連続欠席3日で家庭訪問をする。
- 学校は、不登校が理由の年間欠席が10日以上の子供生徒について支援計画を作成する。
- 学校は、中学校区での異校種の連携を図るために、年間3回の協議の機会を設ける。

学校のあるべき姿

全校での徹底

教員の力量
を重視

全校での徹底

保・幼・小・中
の連携



英語教育の推進について

令和2年5月13日
教育委員会

グローバル化が進展する中で、児童生徒のコミュニケーション力や文化の多様性を尊重する姿勢を育むとともに、英語教育を推進します。

現在の取組

- 全小・中学校に外国語指導助手（ALT）を派遣
- 研究指定校による公開授業

課題

- 英検3級以上相当の生徒の割合（中3）…41.1%（H30）
（全国42.6%）
- 全国学力・学習状況調査…偏差値49（中3）



目標

中学3年生の英語力（英検3級以上相当）… 50%以上

全国学力・学習状況調査の偏差値 … 50以上

授業の半分以上英語を使った活動を行う教員の割合…100%

教員の英語力（英検準1級以上）…50%以上

具体策

- 英語担当教員は、年に2回、異校種の英語の授業を見に行く。
- 教育委員会は、英語に関する教師の指導力向上の研究を学校に依頼し、その成果を広めるために公開授業及び協議を行う。
- 教育委員会は、英語担当教員の英会話を重視した研修等を実施するとともに、検定試験の受検機会を増やす。

学校のあるべき姿

教員の力量
を重視

全校での徹底

保・幼・小・中
の連携



教育の情報化について

令和2年5月13日
教育委員会

情報化の進展の中で、情報活用の実践力や情報モラル等の力を育みます。

現在の取組

- 「岡山市立学校における情報化基本指針」を策定
- 1人1台のタブレットPCの配備を推進

課題

- 授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思う児童生徒の割合が全国平均以下
- 授業にICTを活用して指導することのできる教員の割合が全国平均以下



目標

- 授業でコンピュータなどのICTを毎日使用する児童生徒の割合 <全国学力・学習状況調査>
H31 小5.6% (※10.4%) 中3.8% (※7.0%) → 小、中ともに100% ※全国平均
- 授業にICTを活用することのできる教員の割合 <学校における教育の情報化の実態等に関する調査>
H30 小・中・高67.6% (※69.7%) → 100%

ICTを
活用した
魅力ある
授業

具体策

- 教員は、児童生徒が積極的にタブレット等を活用し、主体的に学習することができる授業づくりを進める。
- 学校は、年1回以上ICTを活用した授業づくりについての研修を行う。
- 教育委員会は、ICTを活用した授業づくりについての好実践例をまとめたICT活用事例集を作成し、周知する。

学校の
あるべき姿

全校での徹底

保・幼・小・中
の連携

教員の力量
を重視

令和2年度第1回岡山市総合教育会議

調査・分析ご報告資料

- 教育改革推進の背景
- 教員の資質能力の向上

令和2年5月13日

株式会社ベネッセコーポレーション



何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現
各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

**新しい時代に必要な資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し**

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

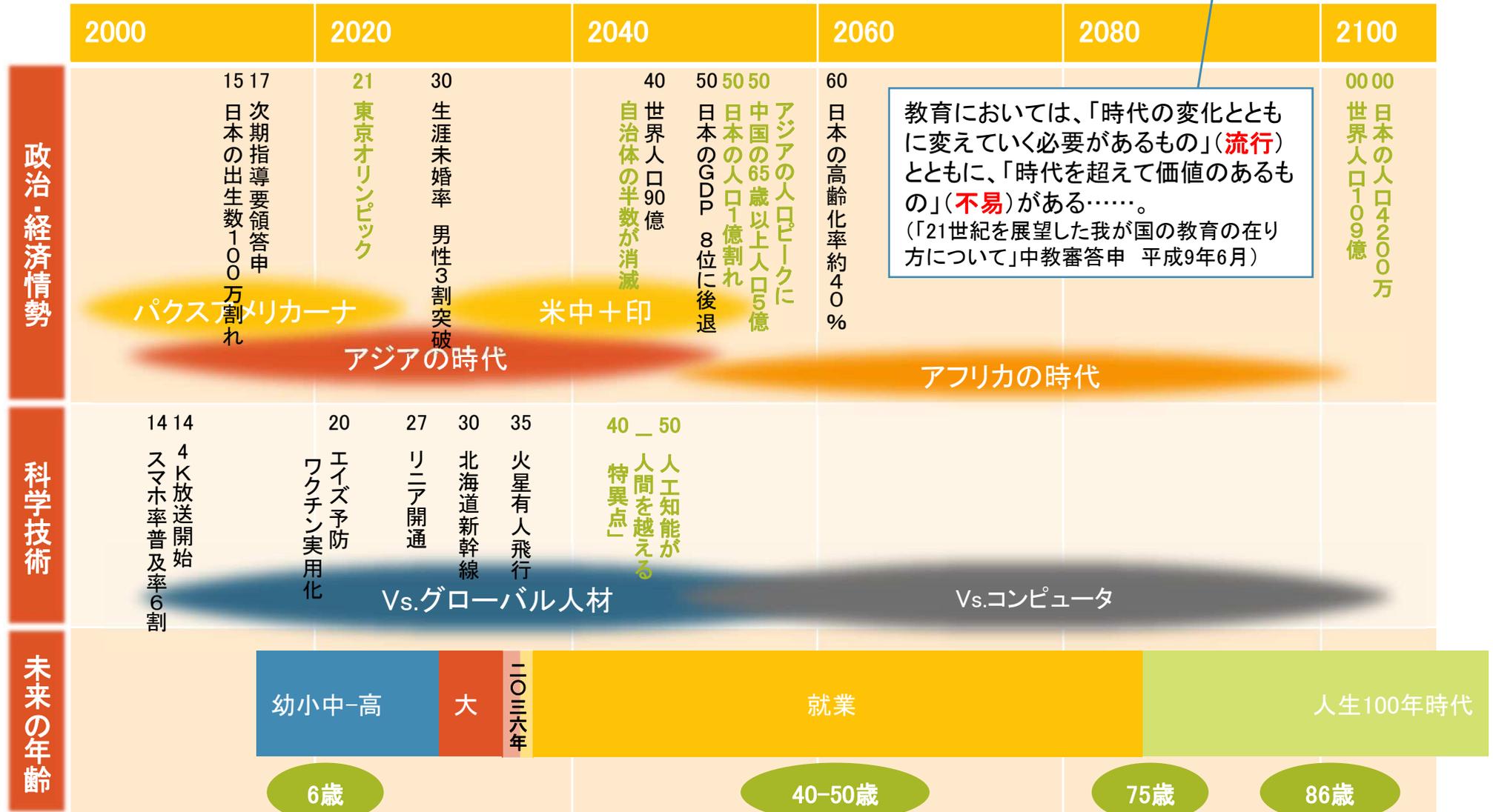
※高校教育については、従来の事実に基づく知識の習得が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革を進める。

教育改革推進の背景

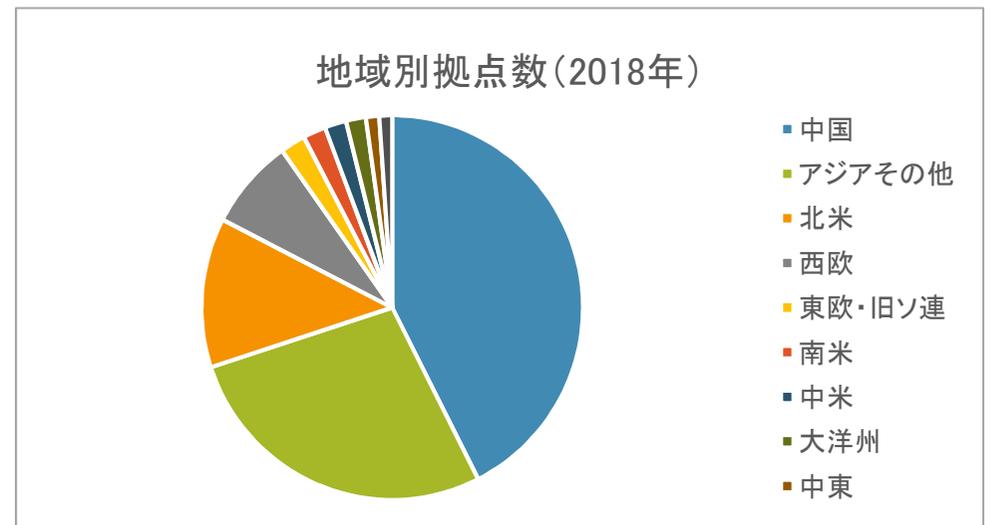
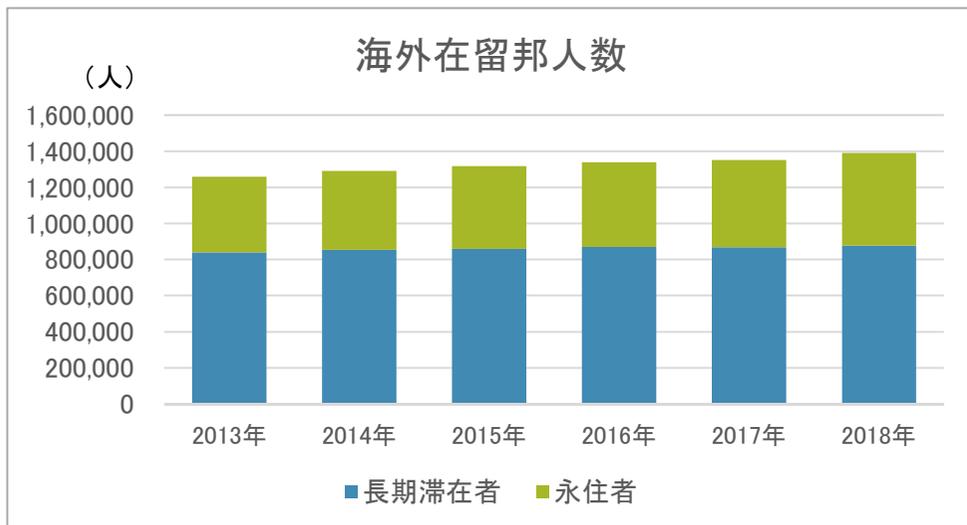
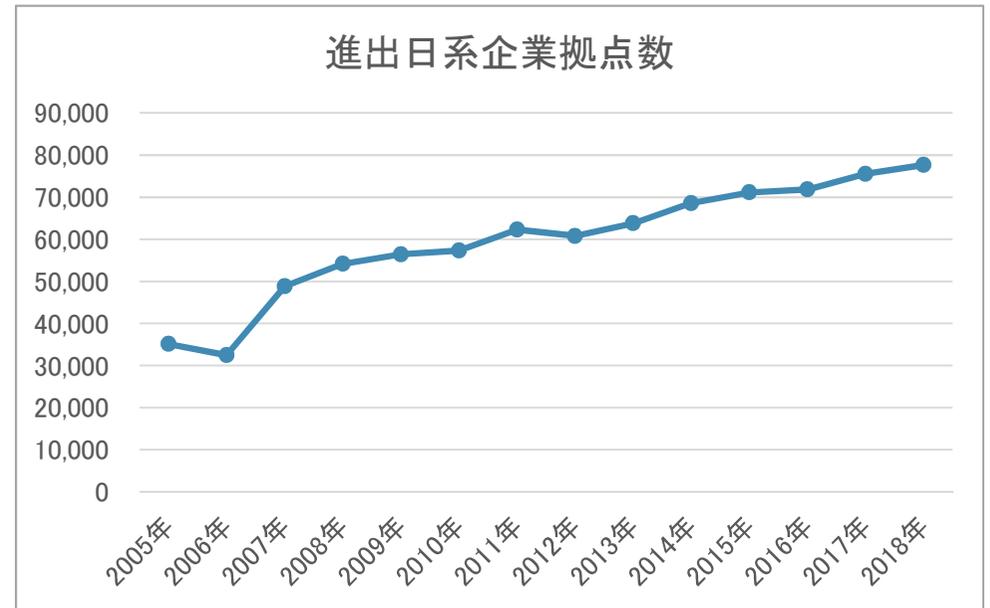
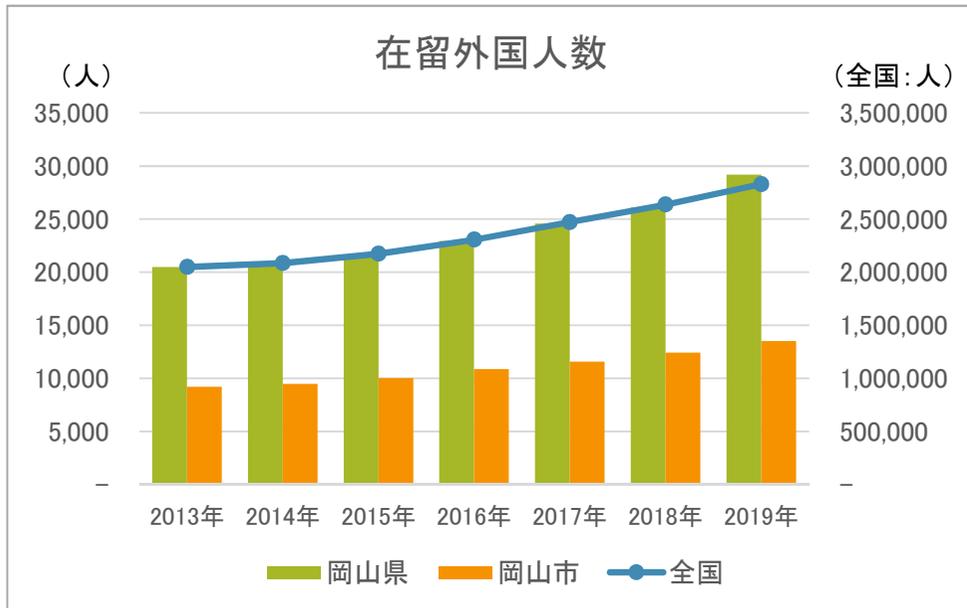
○社会環境の変化

○Society 5.0

今、まだ見えない未来社会を構築していく力を育む教育。＝不易(だからこそその改革・発展)
 今、見えている、これまでの社会との違いが、グローバル化とIT。＝流行

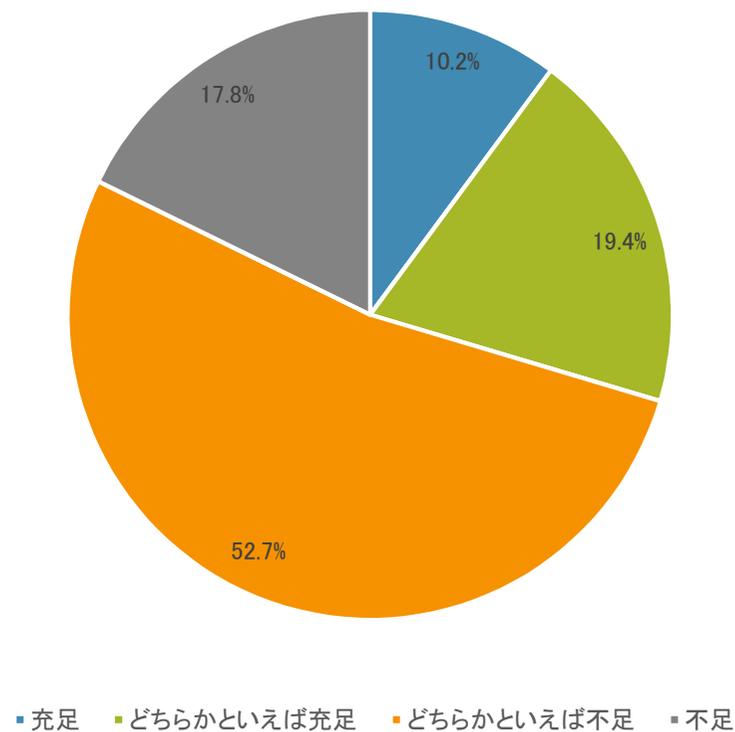


「外国人とともに働く」ことは、国内外を問わず不可避。

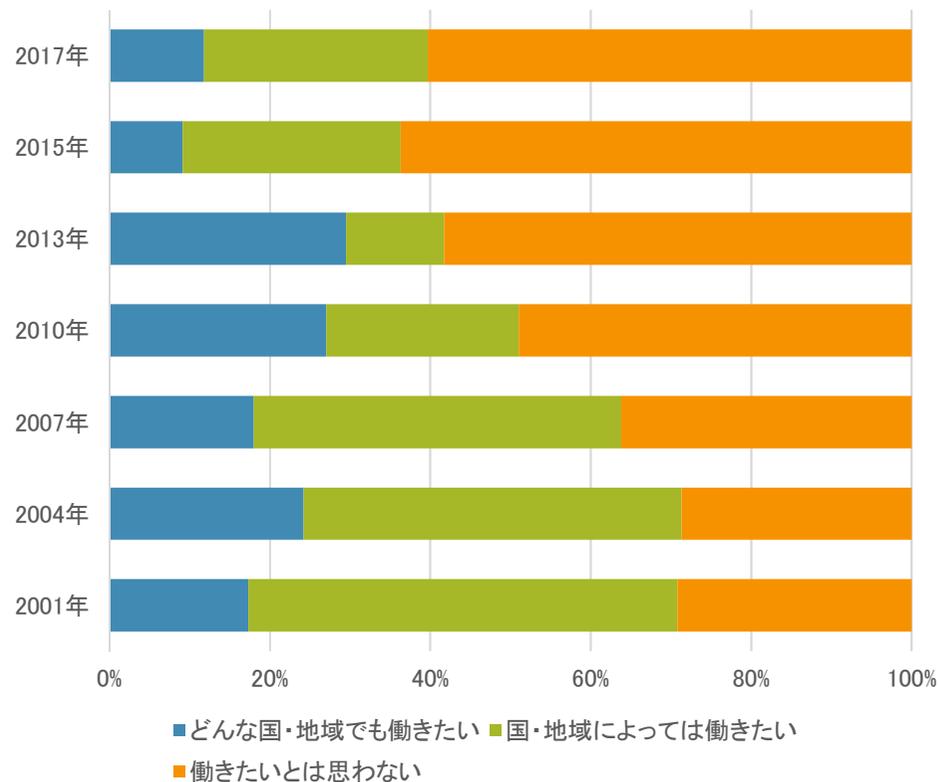


企業の需要は満たされておらず、一方、新入社員（学生）の海外志向は高くない。

海外事業に必要な人材の確保状況（企業）



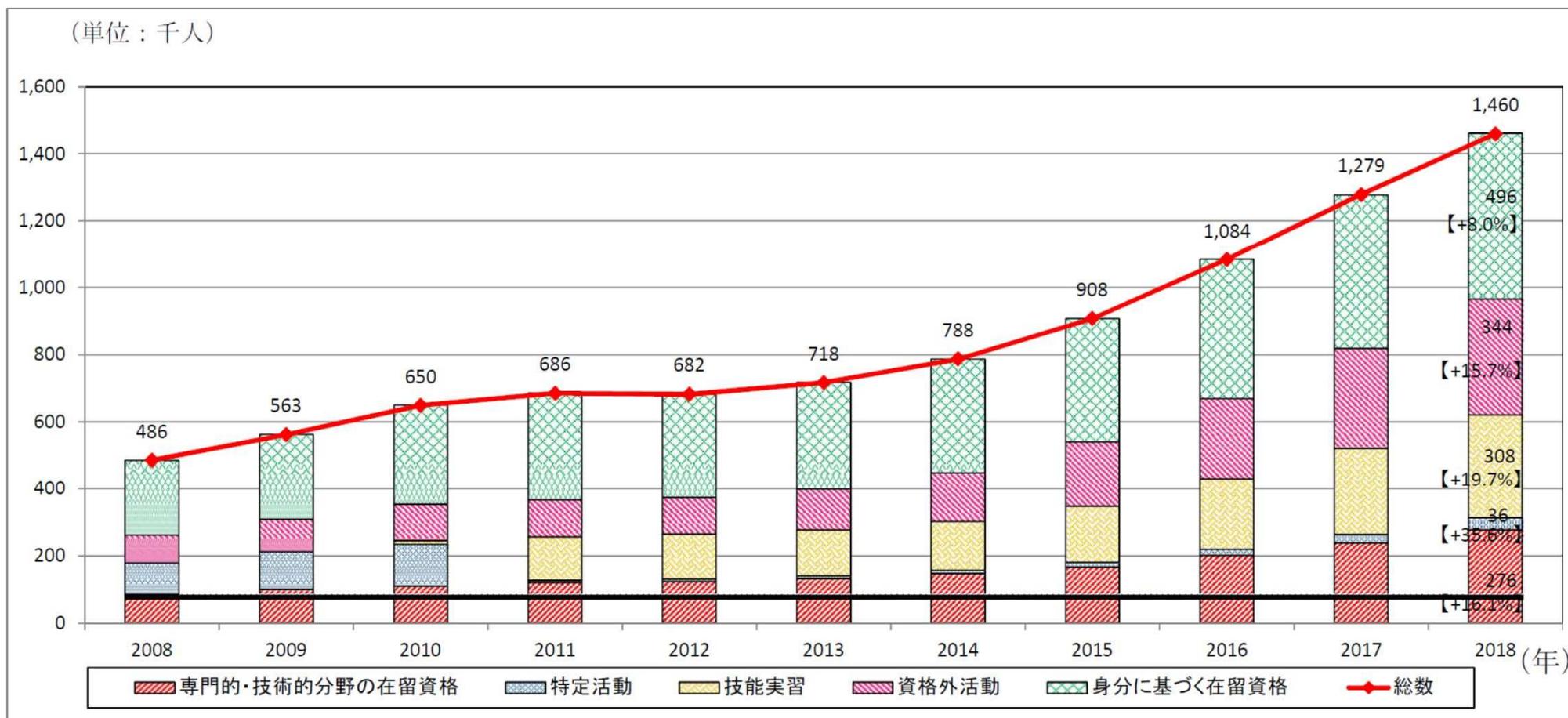
海外で働きたいと思うか（新入社員）



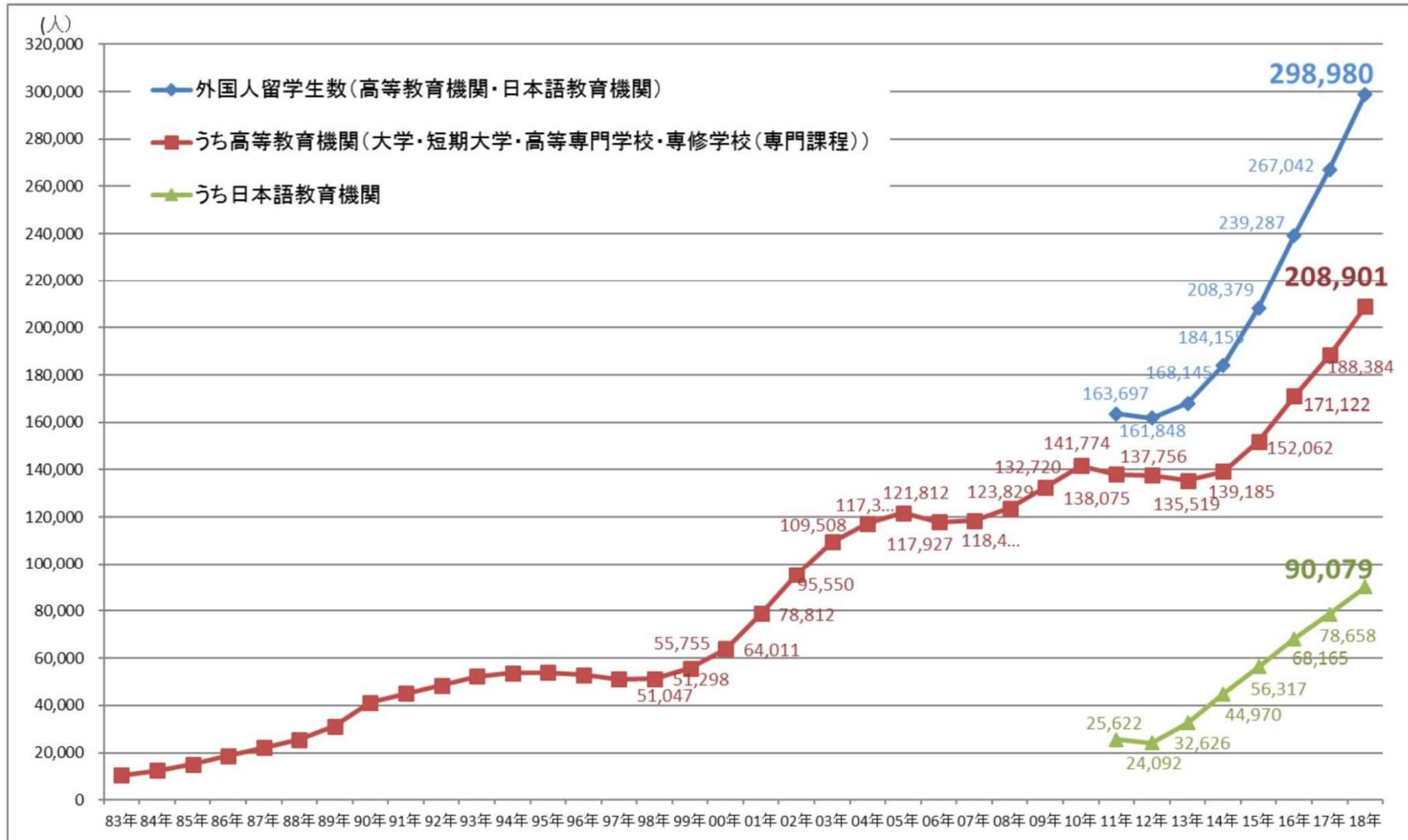
総務省「グローバル人材育成の推進に関する政策評価」2017年

産業能率大学「第7回 新入社員のグローバル意識調査」2017年

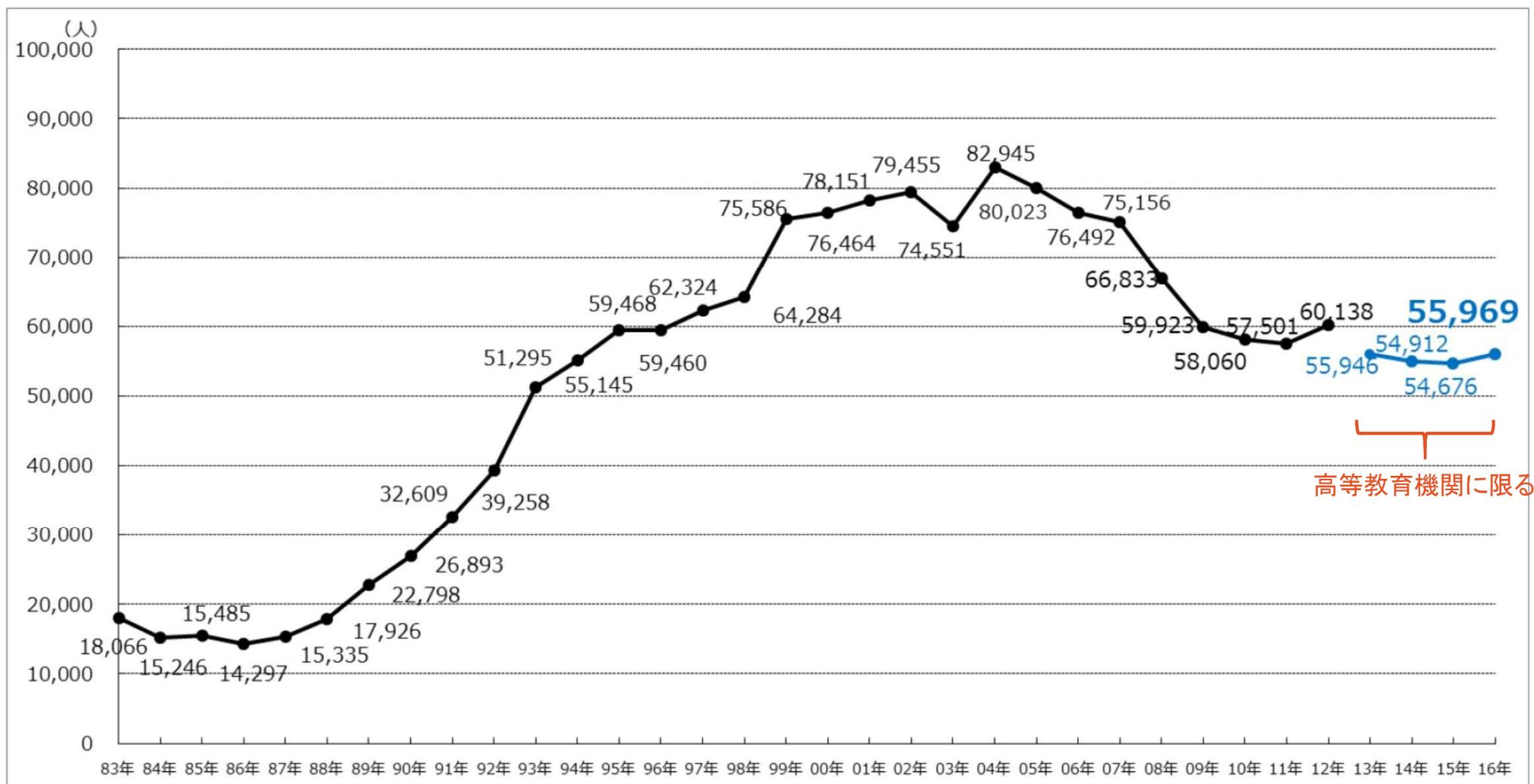
日本で就労している外国人は、平成30年10月末時点で過去最高の146万463人。
 「特定活動」(35.6%)、「技能実習」(19.7%)、「専門的・技術的分野の在留資格」(16.1%)の伸び率が大きい。



毎年、大きく増加している。



全体として減少傾向の中で、増加に転じ始めている。



OECD、ユネスコ、米国国際教育研究所(IIE)等の2016（平成28）年統計による集計

文部科学省による「トビタテ！留学JAPAN」による留学促進、大学の国際系学部の特設留学の拡大により、留学は増加傾向へ。

The image shows a composite of two website screenshots. The top screenshot is a general overview page for international student programs, featuring a navigation bar with categories like '高校生の留学' (Study for High School Students), '大学生の留学' (Study for University Students), and '保護者の皆さま' (For Parents). The main content area has a large banner for 'UNIVERSITY STUDENT 大学生の留学' and a sub-header '全員留学 3つのポイント' (Study for All 3 Points).

The bottom screenshot is a detailed page for '留学プログラム' (Study Program) at Kindai University. It includes a sidebar with navigation options like 'グローバル専攻' (Global Major) and '留学' (Study). The main content features a section titled '留学プログラム' with a sub-header '全学生が1年間の海外留学プログラムに参加' (All students participate in a 1-year overseas study program). Below this, there is a video player for a documentary titled '#国際学部生に密着' (Close to International Department Students) and a section for 'グローバル専攻' (Global Major) with the text 'グローバル専攻(アメリカ) 出発:9月 帰国:4月末~5月'.

On the right side of the bottom screenshot, there is a graphic titled '01 POINT' with the following text:

2年前期の5か月間で500時間の学習時間。約15名の少人数クラスで集中して学ぶ。

- 外国人とともに学ぶ環境だから、英語に集中できる。
- 留学期間は5か月。1週間あたり25時間、1か月で100時間、5か月間で500時間の充実した学習プログラム。

Below this, there is a diagram showing a progression of learning hours: 100h, 200h, 300h, 400h, 500h. A callout box indicates a '25点UP!' (25-point increase) in TOEFL scores. Another callout box states: 'ELSの授業はTOEFL® iBTスコアで例えると、100時間の英語学習で5点相当の英語力を伸ばすようカリキュラムが組まれています。' (The ELS classes are designed so that 100 hours of English learning increases TOEFL iBT scores by 5 points).

「あと10～20年後、全米702職種の47%が人工知能やロボットに代替される。」

(オックスフォード大学 マイケルA オズボーン准教授の計算 2013年)

人工知能やロボットに奪われる職業

一般事務員
銀行窓口係
自動車組み立て工
宅配便配達員…

昔は無かった、今ある職業

Webデザイナー
プロブロガー
ユーチューバー
プログラマー(eスポーツ)…

「現在の小学生の65%は、これまで存在しなかった職業に就くでしょう。」

(デューク大学 キャシー・デビッドソン /教育学者 2011年)

産業構造が変化し、今はまだ存在しない職業に就くかもしれない。
そんな時代において、どのような「学び」であるべきか？

国際競争に日本は参加できていない。(数字は2018年度の連結決算売上概数)

GAFA(アメリカ合衆国)		BATH(中華人民共和国)	
Google (グーグル) 1,368億ドル(15兆円)	世界的な検索エンジンサービス Android OS Chromebook YouTube	Baidu (バイドゥ) 148億ドル(2兆円)	世界第2位の検索エンジンサービス プロジェクターを備えたスマートライト
Apple (アップル) 2,655億ドル(29兆円)	パソコン(Mac) モバイルデバイス(iPhone/iPad) デジタルコンテンツ配信	Alibaba (アリババ) 548億ドル(6兆円)	ECサイト オンライン決済 スマホ決済サービス(アリペイ)
Facebook (フェイスブック) 558億ドル(6兆円)	20億人を超えるSNS インスタグラム	Tencent (テンセント) 454億ドル(5兆円)	SNS(QQ空間) メッセージアプリ(WeChat) スマホ決済サービス(WeChat Pay)
Amazon (アマゾン) 2,328億ドル(26兆円)	通信販売 音楽、動画ストリーミング 電子書籍 クラウドウェブサービス(AWS)	Huawei (ファーウェイ) 1,074億ドル(12兆円)	サムスンに続く世界第2位のスマートフォン販売 データセンター ICTソリューション・プロバイダー

※表中の円換算の売上は、1ドル=110円としたときの概算

楽天市場	1兆円
NTT	12兆円
ソフトバンク	9兆円
LINE	0.2兆円

トヨタ	30兆円
-----	------

1. これからの時代を生きる人たちに必要とされる資質・能力～求められる人材像～

想定外の事象や未知の事象に対して、持てる力を総動員して主体的に解決していこうとする力

◆基礎となる学力、体力

- ・文系・理系を問わない幅広い教養
- ・実社会での活躍に必要な実践的な知識・技能
- ・日本人としての文化、歴史、伝統を背景としたアイデンティティや国語力
- ・英語を中心とした外国語による発信力や情報活用能力
- ・コンピュータに対して人間が優位性を持つ資質・能力

◆最後まで人間が優位性を持つ感性

- ・他者と目標を共有し、協働して課題解決に取り組む
- ・文化的・宗教的背景の異なる人たちとの相互理解
- ・協調性と、その基盤となる倫理観
- ・他者に共感できる感性、思いやり
- ・コミュニケーション能力
- ・多様性を受容する力

◆創造性、チャレンジ精神、忍耐力、自己肯定感

- ・既存の概念にとらわれない創造的な発想力や企画力、直観力
- ・未知の場に飛び出して、発想を拡げる経験の積み重ね
- ・果敢に挑むチャレンジ精神とともに、強い忍耐力
- ・プラス思考で、様々な課題に意欲的に取り組む姿勢

◆主体的に課題を発見し、解決に導く力、志、リーダーシップ

- ・与えられた課題を解決する能力
 - 志を持って、主体的に学び、Whyを考え、課題を発見する能力
- ・相手に説明し、納得してもらう論理性
- ・人の心を動かすプレゼンテーション能力

○「なぜ、そうなるか」

→失敗を恐れず課題に対応

→失敗から原因を分析

→次につなげる

○身に付けた力や態度を実生活の
場面で発揮して行動し、貢献する



「思考力・判断力・表現力」に集約



IoT (Internet of Things)	全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、新たな価値を生み出す
人工知能 (AI)	ビッグデータにより必要時に必要な情報を提供 ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題を克服

希望の持てる社会
世代を超えて互いに尊重し合える社会
一人一人が快適で活躍できる社会

データサイエンティストの不足解消が急務。



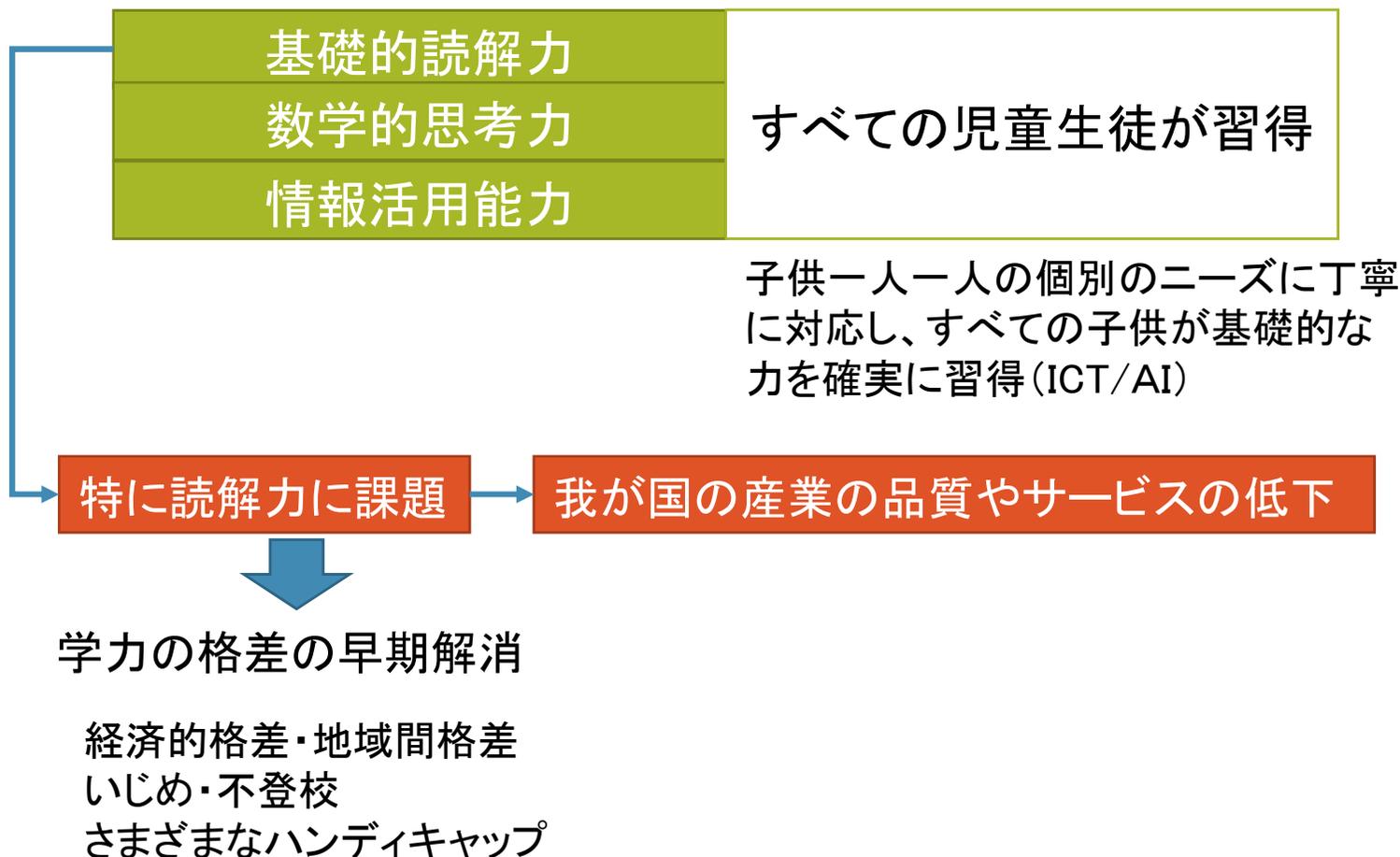
- ◆ AI に関する高度な知識・技術を持つ人材の不足
- ◆ 国際的なプラットフォーム・ビジネスにおける不利な立場
→ マーケットシェア、ビッグデータのサイズ

共通して求められる力	文章や情報を正確に 読み解き 、 対話 する力 科学的に思考 ・吟味し活用する力 価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力 <small>(漢字は引用のとおり)</small>
新たな社会を牽引する人材	技術革新や価値創造の源となる 飛躍知を発見 ・ 創造 する人材 技術革新 と 社会 課題をつなげ、プラットフォームを 創造 する人材 様々な分野においてAIやデータの力を最大限活用し展開できる人材等



<情報科学系高等教育の充実>	
滋賀大学 データサイエンス学部・研究科 横浜市立大学 データサイエンス学部	武蔵野大学 データサイエンス学部 東京工科大学 コンピュータサイエンス学部

義務教育においては、学びの基盤を固める。特に読解力の課題、学力格差の問題の解決が求められる。



学校や学びの在り方が一元モデルから多元モデルに変化する。

一元モデルの学校教育

「教職員だけ」による学校経営

「教師だけ」による指導

「同一内容だけ」児童生徒に教える教育

「紙だけ」で指導

児童生徒を教え導く教師

経験や勘、伝承による成功

多元モデルの学校教育

外部専門スタッフと協働した「チーム学校」へ

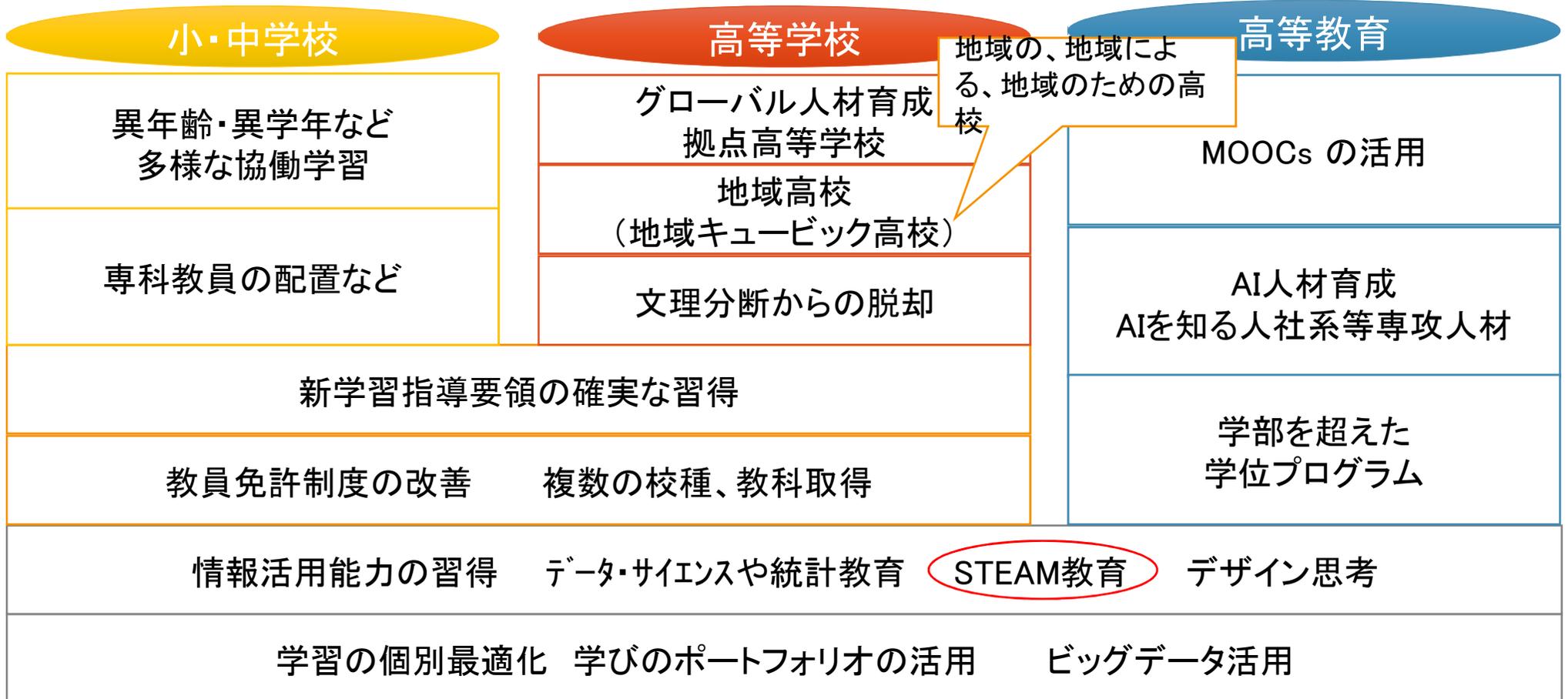
様々な人材との連携・協働により、「開かれた教育課程」を実現

「個々人の特性」に応じた教育

ICT など先端技術も活用

+ 学びの支援者という教師

+ Edtech 「教育や学習を科学する視点」



前提となる基盤整備

教職員定数の改善
指導・事務体制の強化

学校における働き方改革

教師の資質能力の向上

地域と学校の連携・協働

ICT 環境や施設整備

STEAM教育とは

STEAM教育 ≠ プログラミング教育

Science、Technology、Engineering、Art、Mathematics等の各教科での学習を実社会での課題解決に生かしていくための教科横断的な教育

新しい時代の初等中等教育の在り方について(抄)(平成31年4月17日中央教育審議会諮問)

岐阜市「STEM教育事業」 んふっ子からノーベル賞を！

目的	「未来を見据えた人づくり」として岐阜市の産業に貢献する人材育成 科学技術に才能を有する児童生徒の個性や能力を伸ばす教育	
体制	26名のSTEM教員又は短期STEM教員採用(元理科教員等教員免許保有者、教員経験者等) 市立小学校全46校に配置(2校兼務) STEM教員:週5日勤務、短期STEM教員:週3日勤務	
活動	<ul style="list-style-type: none"> ○理科授業における実験 ・STEM教員と担任のTT ・理科を専門としていない教員の指導力向上 ○理数クラブの年間指導 ・化学や物理の原理を応用したものづくり ・休み時間に科学技術体験 	<ul style="list-style-type: none"> ○科学行事への参加 ・校外の科学行事参加。 ○科学作品や発明工夫作品の相談 ・科学館の相談日の相談員 ・各小学校での科学作品や発明工夫などの相談 ○初任者研修での支援 ○ものづくり研修 ○サイエンス・キャンプ研修

社会環境の変化

予測しえない変化

不易

ICT

グローバル

流行

教育においては、「時代の変化とともに変えていく必要があるもの」(流行)とともに、「時代を超えて価値のあるもの」(不易)がある……。
 (「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」中教審答申 平成9年6月)

◆これまでも「不易」としてきたことをさらに進化
 ・資質能力
 ・学力の三要素

学習指導要領改訂の方向性(案)

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
 学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
 思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
 社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

どのように学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
 教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共(仮称)」の新設など
 各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

主体的・対話的で深い学び(「アクティブ・ラーニング」)の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成
 知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

主体的な学び
 対話的な学び
 深い学び

※高校教育については、従来な事後的知識の暗記が大学入学資格で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革を進める。

教員の資質・能力の向上

「社会に開かれた教育課程」の意味を深く受け止める。

社会に開かれた教育課程

社会の変化に目を向け、教育が普遍的に目指す根幹を堅持しつつ、社会の変化を柔軟に受け止めていく

何を知っているか

+

知っていることを使ってどのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

=

新しい社会の在り方を自ら創造することができる資質能力を子供たちに育む

指導によって育まれる思考力、判断力、表現力等を自覚的に認識する。

社会で必要とされる力と教科学習の関係

子供たちの変化等を踏まえつつ自ら指導方法等を不断に見直し、改善する。

「アクティブラーニング」に引っ張られすぎない指導改善

チーム学校において、多様な専門性を持つ人材等と連携・分担してチームとして職務を担い、その役割に応じて活躍することができるようにする。

「自分ができないこと」を知る。
「自分ができないこと」について協力を得る。

研修ニーズは高いが、受講のための環境が整っていない。
→働き方改革

	参加要件を満たしていない(資格、経験、勤務、年数など)	職能開発の費用が高すぎる	雇用者からの支援の不足	職能開発の工程が仕事のスケジュールと合わない	家族があるため時間が割けない	自分に適した職能開発がない	職能開発に参加する誘因(インセンティブ)がない
日本	26.7%	62.1%	59.5%	86.4%	52.4%	37.3%	38.0%
参加国平均	11.1%	43.8%	31.6%	50.6%	35.7%	39.0%	48.0%

※ 職能開発の参加に当たって、各項目が「非常に妨げになる」、「妨げになる」、「妨げにならない」、「全く妨げにならない」の4つの選択肢のうち、「非常に妨げになる」又は「妨げになる」と回答した教員の割合

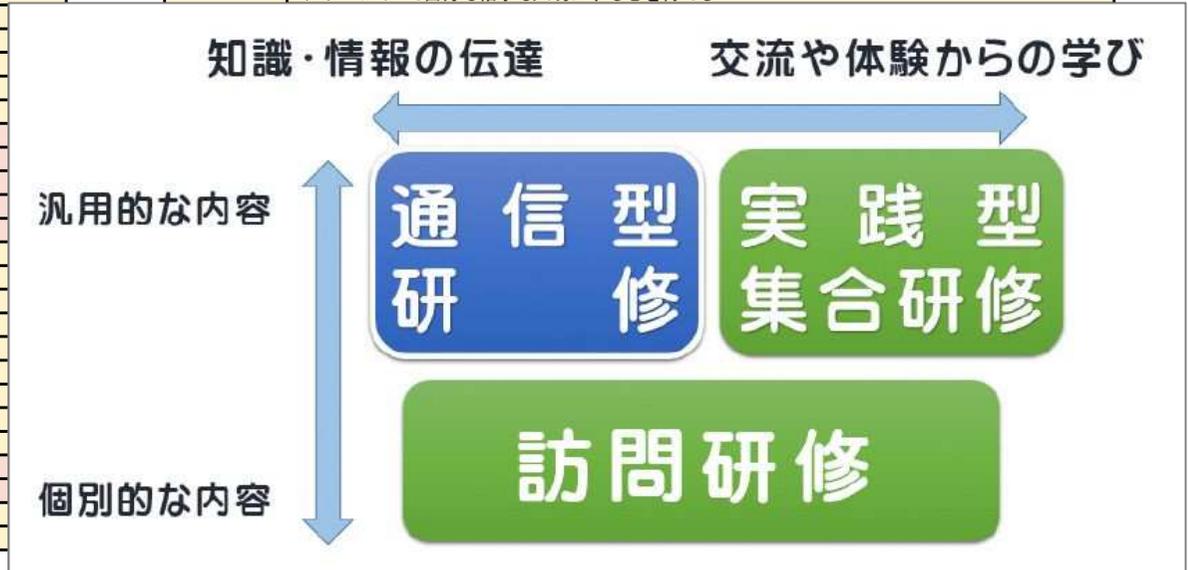


Eラーニングの可能性

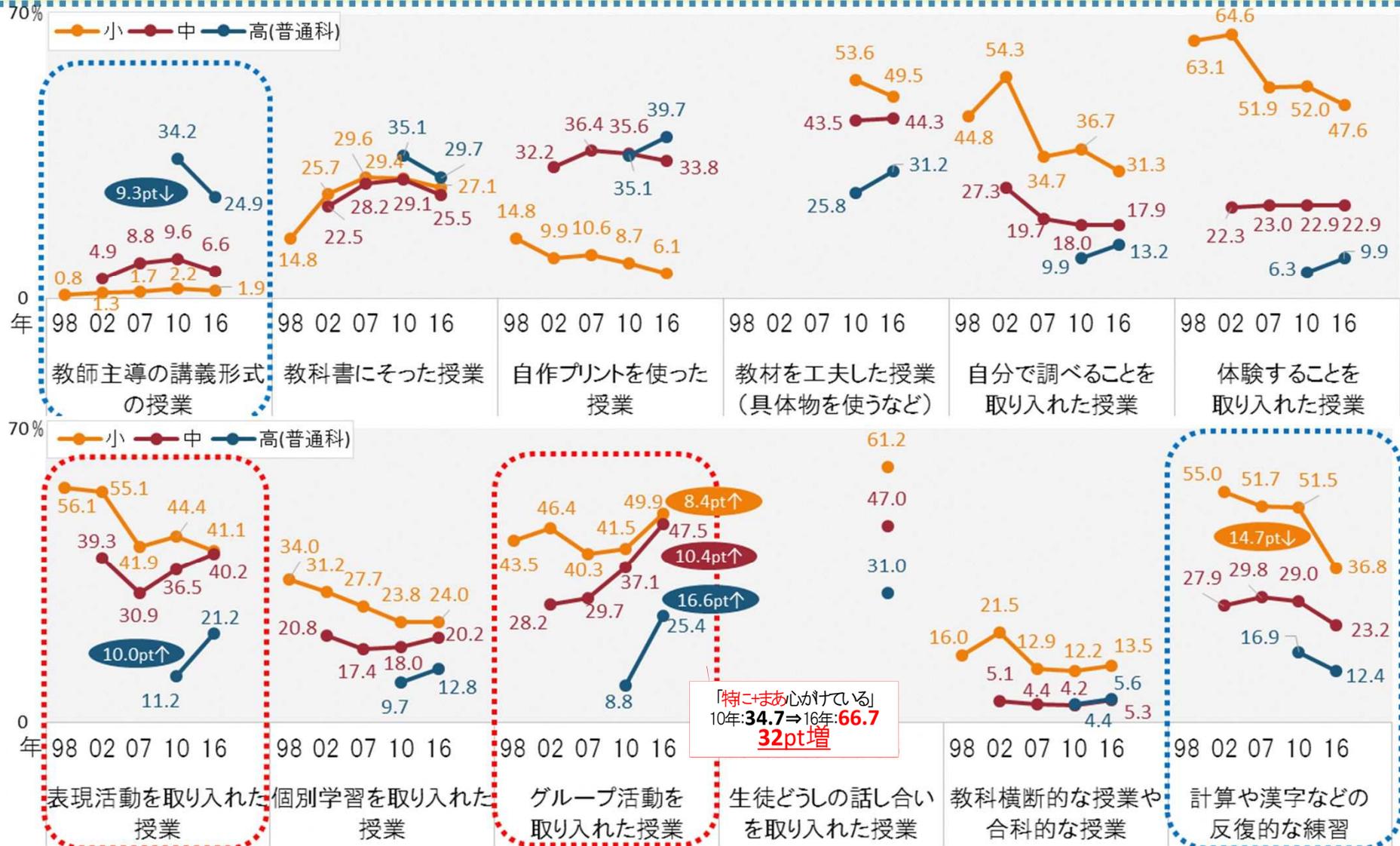
汎用的な内容の伝達に類する研修は、eラーニングで実施。
対面でやるべき研修との切り分け。

国語	小学校国語科の授業づくり
	誰でもできる硬筆指導 ～幼児期・低学年における指導法～
	誰でもできる毛筆指導 ～授業づくりの第一歩～
	小中学校国語科の基礎 ～言語活動を取り入れた楽しい授業づくり～
	古典学習の進め方 ～中学校編～
社会	高等学校国語科における言語活動 ～生徒が主体的に活動する授業を作ろう！～
	小学校社会科の基礎 ～深い学びをめざす授業づくり～
	これからの小中学校社会科の授業づくり
	地歴科におけるアクティブ・ラーニング
	高等学校日本史の基礎 ～アクティブ・ラーニングに挑戦！～
算数・数学	高等学校世界史の基礎 ～中高接続を意識した世界史の授業づくり～
	高等学校地理の基礎 ～アクティブ・ラーニングによる授業改善～
	高等学校公民科の基礎 ～これからの公民科で求められる力～
	小学校算数の基礎
	中学校数学の授業づくりの基礎 ～数学活用力育成～
理科	高等学校数学科 ～知識構成型ジグソー法～
	小学校理科の基礎 ～問題解決の力と授業づくりのポイント～
	小学校理科「ふりこのきまり」～授業名人の授業より～
	小学校理科実験の基礎 ～動画で見る 観察・実験器具の基本操作～
	中学校理科実験の基礎 ～イカの解剖～
芸術	オオカナダモを用いた光合成実験のポイント ～こうすれば、高い確率でうまくいく～
	小学校音楽科 授業づくりの基礎
	音楽遊びの工夫 ～幼稚園から小学校につながる音楽～
	音楽教材への新たなアプローチ ～中学校音楽科・高等学校芸術科音楽～
	小学校図画工作科の基礎 ～楽しい木版画の技法～
技術・家庭	幼児表現「造形遊び」～身近な材料(素材)を使って～
	日本画の表現 ～基礎から応用まで～
	中学校美術科・高等学校芸術科美術の基礎
	日本の美術 ～日本画の指導法～
	小学校家庭科の基礎 ～考える家庭科の授業～
英語	家庭科教育の基礎 ～中学校・高等学校編～
	中学校技術・家庭科(技術分野)の基礎 ～木材加工の基礎知識と基本技能～
	中学校技術・家庭科(技術分野)エネルギー変換 ～簡単な電気機器の保守点検と製作～
	高等学校工業の基礎 ～IoTって何だ?! IoTを理解し広がりを考える～
	You can do it! 小学校外国語活動・外国語科の授業づくり
道徳	これでできる! 担任主導の外国語活動 ～発音編～
	これでできる! 担任主導の外国語活動 ～活動編～
	「先生これ読んで!」～英語絵本の活用法～
	CAN-DOリストで指導が変わる! ～基礎・理論編～
	CAN-DOリストで指導が変わる! ～実践・発展編～
総合	中学校英語科 ～感じたことを英語で表現しよう～
	高等学校英語科の授業づくり
	高等学校英語科 ～英語による授業を効果的に進めるためのコツ～
	道徳教育の基礎
	今、求められる道徳教育 ～道徳科の全面実施～
	総合的な学習の時間のデザイン ～今、求められる力を高めるために～
	効果的な探究活動に取り組もう! ～「総合的な探究の時間」に向けて～

授業改善	授業のユニバーサルデザイン ～どの子も楽しく「わかる・できる」授業をめざして～
	授業の見取りの基礎・基本
	授業力アップを目指す! アクティブ・ラーニング講座 ～入門編～
	授業力アップを目指す! アクティブ・ラーニング講座 ～授業づくり編～
	学習指導要領改訂と授業改善の方向性 ～田村学視学官講演会記録映像～
	21世紀型能力育成入門 ～21世紀を生き抜く子どもを育てる～
	小学校における思考力・判断力・表現力の指導法入門
	ふるさと教育 ～ふるさと福井に誇りと愛着を育む～
	学び合い、世界を広げるNIE ～授業に役立つ新聞活用法の基礎～
	主権者教育 ～社会的な自律を促進する教育を目指して～
学級経営・教育相談	キャリア教育の基礎 ～主体的に学ぶ意欲を高める指導～
	動き出した中学入試改革 ～多様な能力を評価する入試導入へ～
	複式学級・少人数学級のための授業づくり
	不登校の理解と対応 ～基礎編～
	思春期・青年期の理解
	保護者との関係づくり ～ともに子どもを育てるために～
	学級づくりシリーズⅠ ～学級づくりのストーリーを知る～
	学級づくりシリーズⅡ ～基盤づくりの実際を学ぶ～
	学級づくりシリーズⅢ ～誰にでもできる4月からのストーリー～
	学級づくりシリーズⅣ ～ユニバーサルデザイン教育の基礎～
学級づくりシリーズⅤ ～エンカウンターで学級の横糸を育てる～	
Q-Uの基礎 ～学級の“今”を知る～	
アセスを使った児童・生徒理解 ～アセスの使い方・活かし方～	
アサーションで自分も相手も大切にできる心育てる	



教科の授業において心がけている授業方法（「多くするように特に心がけている」の%）は、新学習指導要領全面実施前から変化している。



出典)ベネッセ教育総研「学習指導基本調査」(2016年8-9月調査)

児童・生徒に「思考力・判断力」という言葉は伝わらない。共有できる言葉を使った指導を。

〈考え方〉

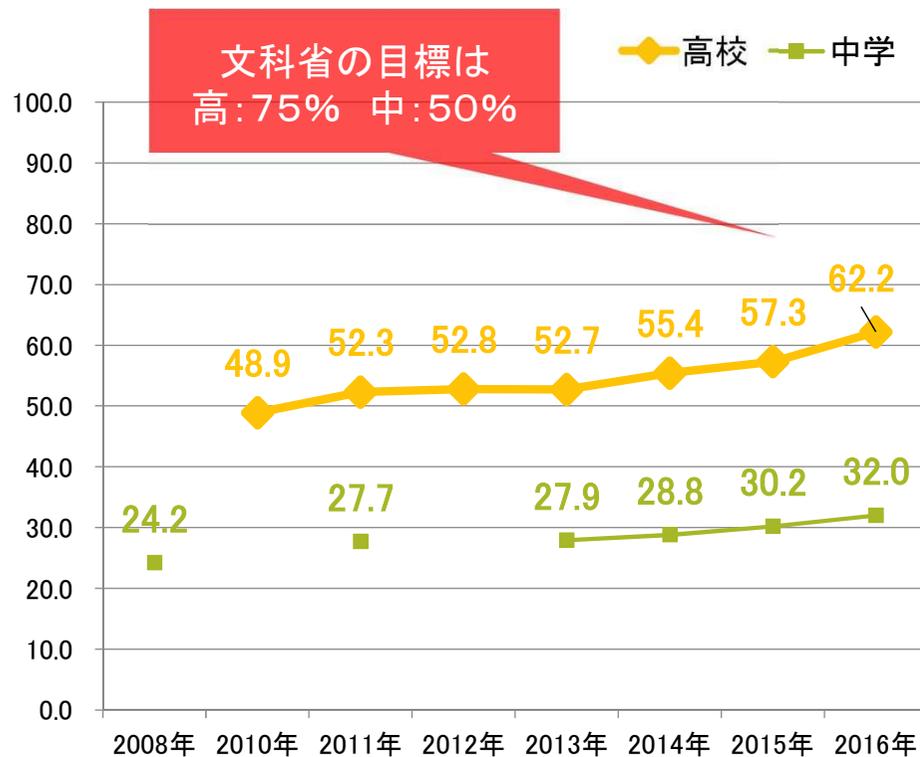
考え方	思考のキーワード
 比較	共通点は 相違点は
 分類	この視点で分けると
 関連	これらを関連付けると
 類推	類似点から推測すると
 一般	これらのことから
 具体	例えば
 多面	他の視点から
 統合	合わせまとめると
 批判	本当にそう言えるのか
 反証	反対の例を示すと

- 比較** …複数の情報を比べて、共通点と相違点を見出すような思考
- 分類** …複数の情報を、一定の視点をもとにして分けるような思考
- 関連** …複数の情報を、共通点などを見出し結びつけるような思考
- 類推** …ある情報をもとにして、類似性のある情報を作り出すような思考
- 一般** …具体的な情報を、抽象的で汎用性の高い情報にするような思考
- 具体** …抽象的な情報を、具体的な情報にするような思考
- 多面** …視点を変えるなどして、複数の視点をふまえて行う思考
- 統合** …複数の情報を合わせて、新しい情報を生み出すような思考
- 批判** …情報の正誤、確かさ、適否等について捉え直すような思考
- 反証** …自分の考えと相反する例を想定し、考えを確かにするような思考

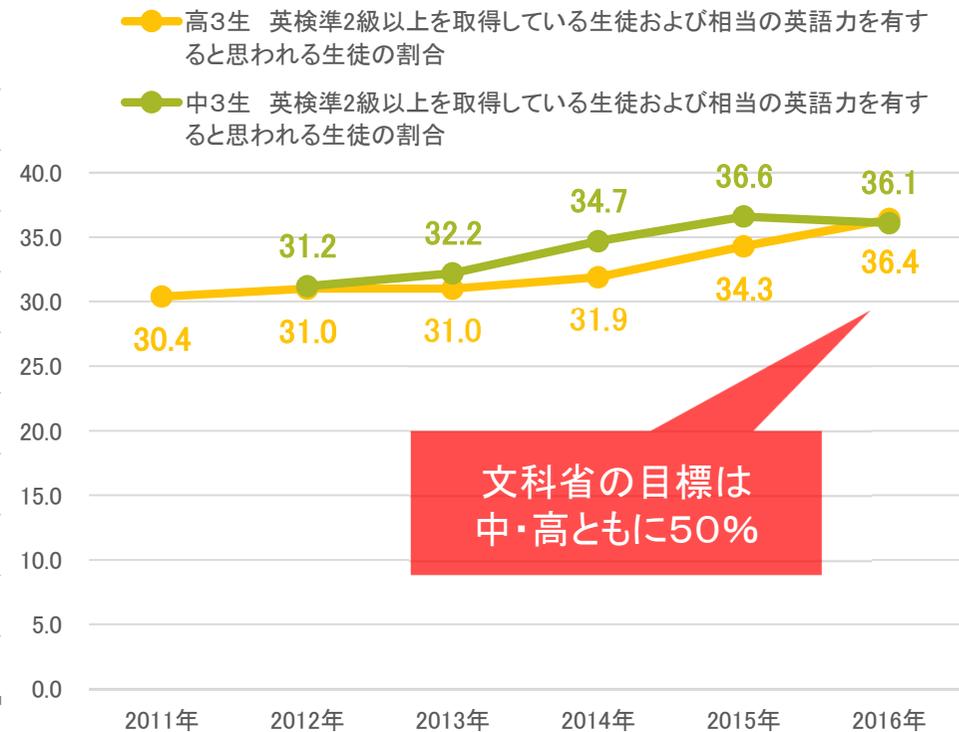
※〈考え方〉は、全国学力・学習状況調査数学B問題の解説を参考にして本校数学科が作成したものをベースに、全教科共通で認識できるものに絞り込んだものである。

教員の英語力、生徒の英語力ともに、文科省の目標水準には到達していない。

英語担当教員のうち英検準1級相当以上の割合



生徒の英語力



出典:文科省「平成28年度版 英語教育実施状況調査」(2016.12 調査)

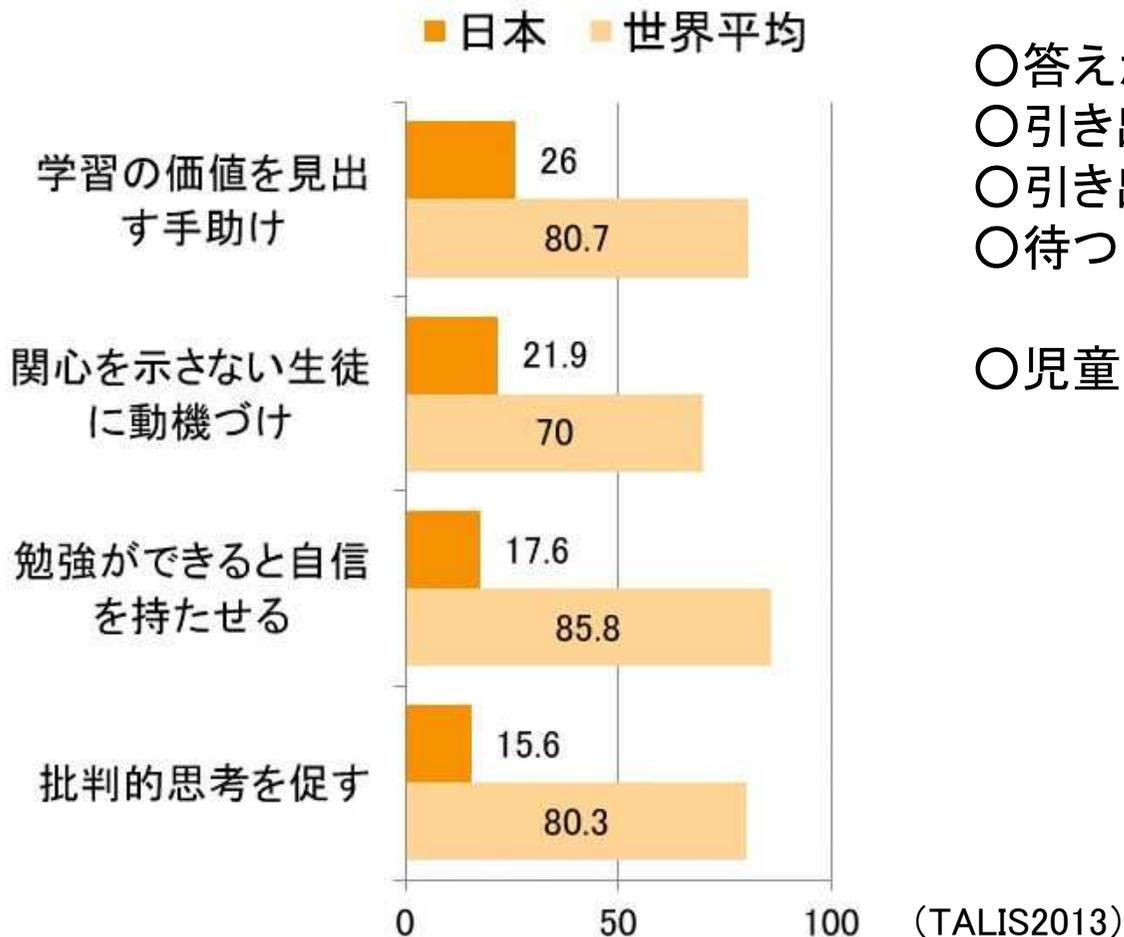
個に応じた学習で端末に慣れ(教員も生徒も)、めざすは、アクティブ・ラーニングの視点に立った学習プロセスにおけるICTの効果的活用。



各教科等ごとに、こうした学習プロセスとICTの効果的活用を明確化するため、現在、中央教育審議会の各教科等別WGにおいて議論中

児童・生徒の主体的な学びを引き出すことに自信がない。
 ファシリテーション力(人々の活動が容易にできるよう支援し、うまくことが運ぶよう舵取りするスキル)の養成が必要。

主体的な学びを引き出すことへの自信



- 答えが一つに決まらない課題の選択力(勇気)
- 引き出すための授業設計力
- 引き出すための発問力
- 待つ力

- 児童・生徒同士で解決させる学級経営力

